

正しい発音ができない・難しい



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

発音の誤りを言い直させず、発音指導は専門家に任せる。

■合理的配慮の詳細

発音指導は、通常の学級では行わず、病院や言語通級指導学級での指導に任せることが望ましいです。発音を言い直させると、正しく言える場合もありますが、複雑な誤り方に悪化させたり、話すことへの自信を失わせたりする恐れもあります。発音の誤りを言い直させても良いタイミングは、言語通級指導学級の担任や指導を行っているST（言語聴覚士）の指示に従うようにします。

■児童の様子

言語通級指導学級に通って適切な指導を受け、発音が改善しました。話すことへの自信も出て、授業中に良く手を挙げて発言するようになりました。



■構音障がいとは

構音は構音器官（こうしん口唇、こうがい舌、口蓋など）の形態を適切に変化させて目的とする言語音のことで、調音と同義語です。発声とは独立した機能と理解してください。構音障がいは、「正確な構音ができない状態」ことを指します。

構音の発育は言語の発育の一部となっています。すなわち、幼児期において構音は発達途上にあるため、言語発達に応じた評価が必要です。生後数か月で喃語(なんご)が現れ、その後徐々に発達しておおよそ6～7歳ごろまでに完成します。

■授業のキーワード■

構音、言語通級指導学級、専門家、医療、言語

構音障がいの子の音読時の配慮



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

発音のしにくさなどを考慮した、学習内容の変更、調整を行う。

■合理的配慮の詳細

誤り音が多く入っている文や文章を一人で音読させることを避けます。練習が進んだ段階で、練習音に気を付けて音読させます。



■児童の様子

国語の授業も安心して受けられるようになりました。発音が良くなって音読した時に、「頑張って練習して上手になったね」とほめられて、自信につながりました。



■誤り音とは

大きく3つに分けられます。

- ①置換 ある音が他の音に置き換わっているもの。 例) すいか⇒すいた
- ②省略 語音の子音部分が省略されて母音部分のみになっているもの。 例) てれび⇒てえび
- ③歪み 日本語の語音として表記できない音に歪んでいるもの。

■授業のキーワード■

構音、音読、誤り音、練習音

発音の誤りへの配慮



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

発音の誤りのために、何を言いたいのか分からないため、書き言葉で代用する。

■合理的配慮の詳細

発音の誤りが多くても、会話を繰り返していると、慣れて次第に分かるようになってきます。それでも分からなかった時には、紙などを渡して書いてもらうようにします。



■児童の様子

以前は、話したいことがたくさんあってよく話しかけてきましたが、教員に分かってもらえないことが続き、話すのをあきらめたり、あまり話さなくなったりしていました。

紙を渡して、分からなかった言葉を書いてもらうようにしたところ、自分から伝わらない時に書いて知らせるようになり、再びよく話すようになりました。



■授業のキーワード■

発音の誤り、メモ用紙

吃音の音読時の配慮①



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

音読時に、吃音の出やすい言葉や文を小声で添え読みする。

■合理的配慮の詳細

声を合わせて読むと吃音が出にくくなります。そこで、音読時に机間指導をしながらそばに寄って、吃音の出やすい言葉や文を小声で添え読みすると、言葉が楽に出やすくなります。



■児童の様子

音読の際に、教員が添え読みしてくれることで、言葉がつまって出なくなることが減りました。また、スムーズに読める経験が積み重なり、苦手意識が減っていきました。



■吃音とは？

発声時に第1音が円滑に出なかったり、ある音を繰り返したり伸ばしたり、無音が続いたりします。不安や緊張などの心理的影響が強いと考えられていますが、原因は不明です。舌・唇・声帯・横隔膜など、発声・調音（構音）・呼吸に関係のある器官に痙攣けいれんを伴うこともあります。

吃音症、呐吃（とつきつ）、どもりともいいます。

■授業のキーワード■

吃音、添え読み、机間指導、音読

吃音の音読時の配慮②



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

吃音に考慮して、一人で音読させる場面や順番に当てていく場面をなくす。

■合理的配慮の詳細

吃音が出やすい音や単語を含む、文や文章の音読を、授業中に一人で読ませることを避けます。一斉読みや少人数での音読を行い、読み慣れてから一人読みをさせます。

順番に当てられると、自分の番が来るまでに緊張が高まってしまい、吃音が出やすくなる児童もいるので、順番に当てていくことは避けます。



■児童の様子

一人で音読させられることや、端から順番に当てられることが気持ちの負担になっていました。教員が、音読を一斉読みにしたり、指し方を変えてくれたことで、安心して授業を受けられるようになり、不安感が軽減し、吃音も軽くなりました。



■授業のキーワード■

音読、一斉読み、順番、

吃音のためスムーズに話せない



各教科



生活全般

■ 合理的配慮の内容

あらかじめ決めておいた手指でのサインや、黒板やホワイトボードなどで
発言内容を伝えるようにする。

■ 合理的配慮の詳細

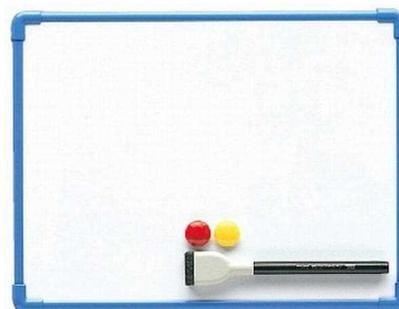
この配慮を提供とした児童は、発言したくても、吃音のためにスムーズに話すことができません。

吃音のために話すことが困難な場合には、会話では筆談を用いたり、書き言葉で代替したり、必要に応じてデジタルメモを用いたりします。

授業中、発言したくてもできないような時には、あらかじめ決めておいた簡単な手指のサインを使わせたり、黒板に書かせたり、小さいホワイトボードを持たせてそれに書かせたりします。

■ 児童の様子

吃音のために言葉が出ず、自分は答えが分かっていたのに発言できないと、泣いて悔しそうにしていました。教員が、黒板に答えを書くのを許したり、児童専用のミニホワイトボードを持たせたりしたところ、うれしそうに書くようになりました。ストレスがたまらなくなったことで、吃音も軽くなりました。



小さなホワイトボード

■ 授業のキーワード ■

筆談、デジタルメモ、手指のサイン、ホワイトボード

自分の吃音を気にしている

児童生徒への配慮



生活全般

■合理的配慮の内容

吃音のある児童生徒などが集まる交流の機会について、情報提供を行う。

■合理的配慮の詳細

言語障がい通級指導学級などを通して、吃音の自助グループなどを紹介し、参加を促します。



■児童の様子

吃音の自助グループに参加して、同年代の仲間や成人の吃音者と交流をする中で、自分の吃音に対する考え方が変わり、楽に生活できるようになりました。



■授業のキーワード■

吃音、自助グループ、交流

全学年

分からない言葉や言い回しが多い



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

分からない言葉や言い回しを具体的に教える。

■合理的配慮の詳細

分からない言葉や言い回しについては、その都度教えます。

また、気持ちや考えの伝え方については、「こういう時には、こんなふうに言う」と例を示すようにします。



■児童の様子

分からなそうな言葉や言い回しについて、言い換えて示すことで、理解が深まりました。

また、友達や教員に伝えたいことがある時に、具体的に例を示してもらうことで、次に同じような場面が生じた時には、自分から気持ちや考えを伝えることができました。

■言語発達障がいとは？

年齢に比べて使える単語の数が著しく少ない、時制を間違う、長い文章や複雑な文章を作成することができないなどの、表現する言葉の力が遅れている場合、単語や文章あるいは特定のジャンルの語など、言葉の理解ができない場合、会話が困難なほど、正しく発音できない場合があります。

知能検査で、動作など言葉以外の知的能力に比べて、言葉の能力を表す得点がある程度低い場合です。精神発達遅滞や感覚器の障がいのある場合もあります。自閉症（じへいしょう）とは区別されています。

■授業のキーワード■

分からない言葉、分からない言い回し、言い回しの例



■ 合理的配慮の内容

課題をこなせない場合は、課題を減らしたり、変えたりする。

■ 合理的配慮の詳細

言語に関する学習では、友達と同じようにできないものも多いので、保護者と相談の上、課題を減らしたり、変えたりして成就感をもたせて意欲を引き出します。



■ 児童の様子

課題が多かったり、難しかったりして、課題そのものへの取り組みに対して意欲がなかったのですが、配慮してもらうことによって意欲が出ました。

課題の量は、少しずつ増やしていくことができました。

意欲的に取り組むことで、成果が得られ、ますます頑張ろうとする、良い循環となりました。



■ 授業のキーワード ■

課題を減らす、課題を変える

読み書きの困難への配慮



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

自分で読む代わりに読んで聞かせる。言葉以外の補助手段を用いる。

書く代わりにデジタルメモなどを活用する。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、読み書きに困難があり、時間がかかっています。また、指示や説明ができないなどの困難もあります。

読み書きに困難がある場合には、ワープロタイプのデジタルメモを用いて記録し、出力してノートの代わりにします。テストは、読んで聞かせれば分かることがあるので、全体で共通理解を図りながら、テストの形式を工夫します。

聞いただけでは分からない場合には、文字で示したり、絵や動作を加えて説明したりします。また、ゆっくりと短めの文で話したり、やさしい言葉に言い換えたりします。

■児童の様子

書くのが遅いため、板書の写しが間に合わず、ノートに書くことをあきらめていました。デジタルメモを使うことで、楽に記録が取れるようになりました。以前はテストも白紙で出していましたが、読んでもらい口頭で答えることができました。授業の工夫で、授業内容も理解しやすくなり、学習意欲が高まりました。



デジタルメモの一例

■授業のキーワード■

デジタルメモ、テストの工夫、文字で示す、絵、動作、短めの文

発音や吃音、言語発達の遅れによる



各教科

自信の喪失に対する配慮



生活全般

■合理的配慮の内容

言語障がい通級指導学級を利用するなどして、個別指導の時間を確保する。

■合理的配慮の詳細

課題の解決のために、個別指導の時間を確保します。それでも改善しない場合や、より系統的に指導を行うためには、言語障がい通級指導学級の利用が有効です。通級により抜けた授業については、補償を工夫して行うようにします。



■児童の様子

個別指導の時間を確保したり、言語障がい通級指導学級に通うことで、課題が少しずつ改善していきました。

通級により抜けた時間は、休み時間の個別指導や、保護者に家庭での学習支援を依頼するなどして、次の授業で追いつけるように工夫してもらったため、安心して通級指導学級に通うことができました。



■授業のキーワード■

個別指導、言語障がい通級指導学級

話すことへの配慮①



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

話す意欲や内容をほめて、発音の誤りや吃音を気にせず、安心して話せる雰囲気作りをする。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供とした児童は、話すことに自信を無くして、消極的になり、人との関わりを避けるようになっていました。

発音や吃音に対して、言い直しをさせたり、注意をしたりしません。言い直しをしても、誤った発音が良くなることが多いからです。吃音についても、「ゆっくり話して」「深く息を吸って」「落ち着いて」など良かれと思って掛ける言葉も、自分の言葉に必要以上に關心を向ける結果になり、悪化につながるのを避けます。また、かけ算を速く言うなど、速度を要求する課題も避けます。

話す意欲や内容をほめて、発音の誤りや吃音を気にせず、安心して話せる雰囲気作りをします。

■児童の様子

発音や吃音を気にしてあまり話さなかった児童も、教員が話す内容に注意を向けてくれるので、気にせずに話せるようになりました。そんな様子を見て、友達も発音や吃音を指摘せずに、やりとりを楽しむようになりました。



■授業のキーワード■

言い直しや注意をしない、安心して話せる雰囲気作り

話すことへの配慮②



各教科



生活全般

■合理的配慮の内容

できて当たり前のことや、部分的にできることでも褒めるようにする。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、できないことが多いために、自信を失いやすくなっていました。

できて当たり前のことや、部分的にできていることでも褒めるようにします。また、学習態度を始めとして、行動面や気持ちなど、学校生活全体を見て、児童生徒の良いところや努力を認めていくようにします。



■児童の様子

褒めてもらえる機会が増え、全部できなくても頑張りを認めてもらえることで、安心して力を発揮できるようになり、意欲が高まりました。



■授業のキーワード■

褒める

ことばの専門性の活用



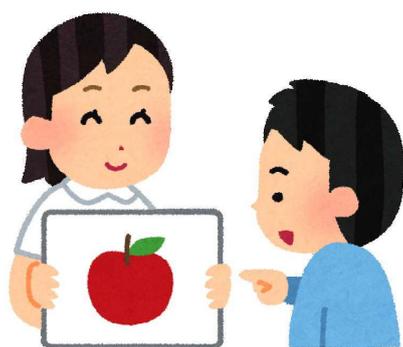
■合理的配慮の内容

専門機関を活用することで、指導の充実を図る。

■合理的配慮の詳細

構音障がい（正しい発音ができない、難しい）、吃音がある、言語発達が遅れている児童生徒の指導の充実を図るため、特別支援学校（聴覚障がい）のセンター的機能及び言語障がい特別支援学級、通級による指導等の専門性を積極的に活用します。

また、言語障がいの専門家（言語聴覚士等）との連携により、さらに指導の充実を図ります。



■児童の様子

通級するまでは、親子ともにいつかは良くなるのではないかと思い悩みながら過ごしていました。通級を利用することで、これからの見通しも明るくなりました。



■授業のキーワード■

構音障がい、専門機関、特別支援学校、言語障害通級指導学級、言語聴覚士（ST）

ことばの障がいへの理解啓発



■合理的配慮の内容

構音障がい、吃音等の理解、本人の心情理解等について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

■合理的配慮の詳細

①級友が発音の誤りや吃音について指摘したり、からかったりしないよう、「誰にでも苦手なことはあること」「今がんばっているから温かく見守ってあげること」などを指導します。

②自分の気持ちの表現が上手ではないので、どうすべきかを教えるとともに、気持ちや考えを聞き取って、友人関係の調整を行います。

③通級児が苦手なことを改善するために頑張っていることを伝え、通級の行き帰りに、「行ってらっしゃい」「お帰り」と声をかけるなど、友達が通級児を温かく応援する態度を教えます。

■児童の様子

①新しい学年に上がって最初に教員が友達に話してくれたので、嫌なことを言われなくて、安心して過ごすことができました。

②教員が丁寧に話を聞いてくれて、自分の気持ちを言葉で補いながら、分かりやすく友達に伝えてくれたので、誤解を解いて、仲直りすることができました。

③初めは、授業を抜けての通級に不安を感じていましたが、友達の明るい送り迎えに、気楽に通級できるようになりました。また、自分から通級での楽しかったことなどを伝える様子も見られるようになりました。

■授業のキーワード■

構音障がい・吃音の理解、本人の心情理解、障がいへの理解啓発

言語障がい児への災害時への支援体制



■合理的配慮の内容

災害時等への支援体制の整備。

■合理的配慮の詳細

発語による連絡が難しい場合には、代替手段により安否を伝える方法などを取り入れた避難訓練を行います。

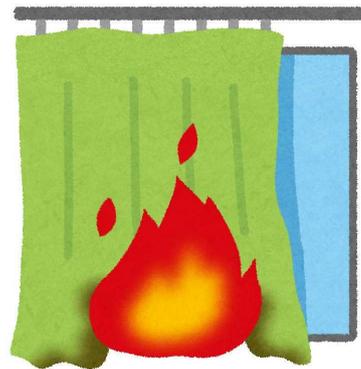
たとえば、人の命にかかわるようなことが起こったときに、そのことを教員や、級友にうまく伝えられない場合は、言葉で伝える以外の手段（ジェスチャーなど）を決めておきます。

避難訓練などで練習をしておくことで、万が一の時に、スムーズに伝えることができるようにします。



■児童の様子

避難訓練を活用して、決められたジェスチャーを練習しました。普段は使わない約束をすることも大切です。



■授業のキーワード■

災害、避難訓練

聞こえにくさを補う



生活全般



各教科

■合理的配慮の内容

F M式補聴器などの補聴援助システムを使用する。授業中は教員がマイクを装着し、マイクの声をもFM式補聴器などが受信し、教員の声聞きとっている。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、聞こえにくさがあり、補聴器や人工内耳等の機器を装用しないと、授業を聞くことや友達との会話も困難な状態です。

現在は、補聴器の性能も良くなりましたが、眼鏡と違って補聴器を着ければすっかり聞こえるようになるわけではないので、そのことを認識したうえで児童生徒の対応にあたっています。

■児童の様子

FM式補聴器などにより教員の話が直接耳に入ってくるため、聞き落としが少なくなりました。教員が授業中、他の児童生徒の発言を復唱する、またはマイクを向ける、朝会時に校長先生にマイクを装着してもらったりすることで、さらに聞きやすい場面が広がりました。専科の授業等も含め、できるだけ多くの場面で使用できることが望ましいです。

■FM式補聴器とは？

FM電波を使った補聴器。FMマイクから入る音を電波にして、補聴器で受信するもので、離れたところにおいても、補聴器をとおして聞こえます。また、モードを切り替えることで、普通の補聴器と同じように、補聴器の内臓マイクを通してすべての音を大きくすることもできます。

現在は、従来のFMシステムのようにチャンネル設定をする必要がなく、音声が混信しない新しい補聴援助システムが主流となっています。

■授業のキーワード■

補聴器・FM式補聴器

聞こえにくさを視覚で補う



生活全般



各教科

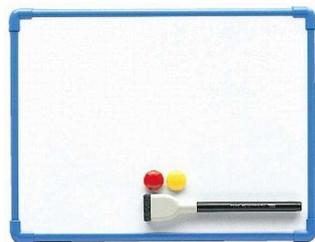
■合理的配慮の内容

状況に応じたコミュニケーション手段（身振り、簡単な手話、ホワイトボード、空書き等）を活用。また、話し合いの内容を書いて、本人に提示し確認させる。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、聞こえにくさがあり、相手の声が聞き取れない時があります。ホワイトボードなど、すぐに書いて消すことができる道具を用意する、身振りや簡単な手話を覚えたり、空書き等、視覚で伝えるコミュニケーション手段も活用しました。

また、グループ学習時には、学級全体でルールを整理し、同時に二人の人が話さないなど、友達の発言が確実に聞けるようにしたり、発言が文字で書かれたりするようにします。



小さなホワイトボード等を使って視覚から伝えます。

■児童の様子

言葉と共に視覚で伝えるコミュニケーション手段を活用することで、聞き落としがあっても補うことができました。また、聞くことだけに集中しなくてもよくなったので、ゆとりをもって授業に臨めるようになり、疲れが溜まりにくくなりました。

また、グループ学習では、話し合いの内容を整理して、ホワイトボードや用紙に記入することで、話し合いの内容を共有することができました。他の児童生徒についても、話し合いの内容が整理されるので、分かりやすいというメリットがありました。

■空書きとは？

聴覚障がい者の方に向かって、空中に文字を書いて伝えます。聴覚障がい者の方は、文字を逆さから見ることになるのですが、慣れている方は読むことができます。

■授業のキーワード■

聞く・ホワイトボード・メモ用紙・手話・筆談・空書き

ヒアリングテストが聞き取りにくい



■合理的配慮の内容

国語や外国語のヒアリングテスト等における音質、音量の調整や、学習室の変更、調整を行う。

■合理的配慮の詳細

CDからのヒアリングなどでは、音声がかうまうま聞き取れない児童生徒がいます。

音質等の調整や学習室を変更してヒアリングテストを実施しても、CDでの聞き取りが困難な場合は、目の前で人が話した方が音質も良く、口元も見えるので聞き取りやすいです。それでも聞き取れない時は、文字による代替問題を用意します。

■読話とは？

相手の口の動きや顔の表情から、音声言語を読み取り、理解することです。

体育（たいいく）や洗濯機（せんたくき）などは、（たいく）（せんたつき）と発音することが多いので、読話からでは分かりにくい言葉のようです。

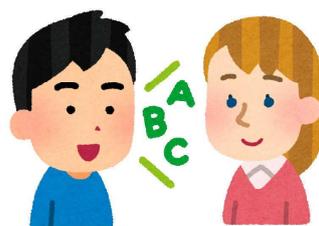
■児童の様子

補聴器や人工内耳は機械なので、人間の耳と違って選択的に音を拾うことができません。

- ・ 静かな環境を作る
- ・ ノイズを減らす
- ・ 教員が口頭で言う

などの配慮で、聞き取りやすくなりました。

また、文字で代替してもらうことで、問題への取り組みが良くなりました。



■授業のキーワード■

CDの音質・音量の調整・学習室の変更・口話・口元・代替問題

屋外や体育館では声が聞こえにくい



■合理的配慮の内容

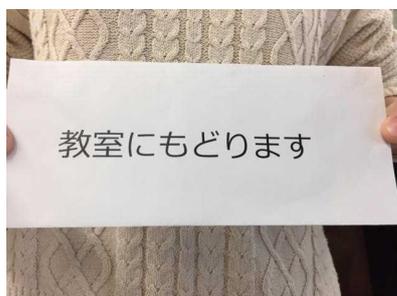
球技等運動競技において、音による合図を視覚的に表示する。

■合理的配慮の詳細

補聴器や人工内耳等の機器を使用しているも、体育などで遠くに離れて機器に声が届かない時や、水泳で機器を外した時には、指示等が伝わりません。決まった指示については、事前に文字カードを作る、動作を決めておくなどの対応をします。

また、ホワイトボードを使用する、出発の合図などを旗に替えるなど、視覚的に伝えます。

前の人ができることを見られるように、本人の立つ位置などに配慮します。



■児童の様子

視覚で指示を受け止めることができるので、他児と同じタイミングで安心して授業に取り組めるようになりました。



■授業のキーワード■

文字カード・ホワイトボード、決まった動作・旗・児童生徒の立つ位置

授業中の聞こえにくさを視覚で補う



各教科

■合理的配慮の内容

適切な照明を設置する。視覚からの情報を受け取れるように教員の立つ位置などに配慮する。

■合理的配慮の詳細

対象の児童生徒から、板書や教員の口元が見やすいように、教員は口元が見えるように前を向き、板書が隠れない位置に移動して話します。分かりやすい板書の工夫をし、大切なポイントとなる単語は、板書して示します。

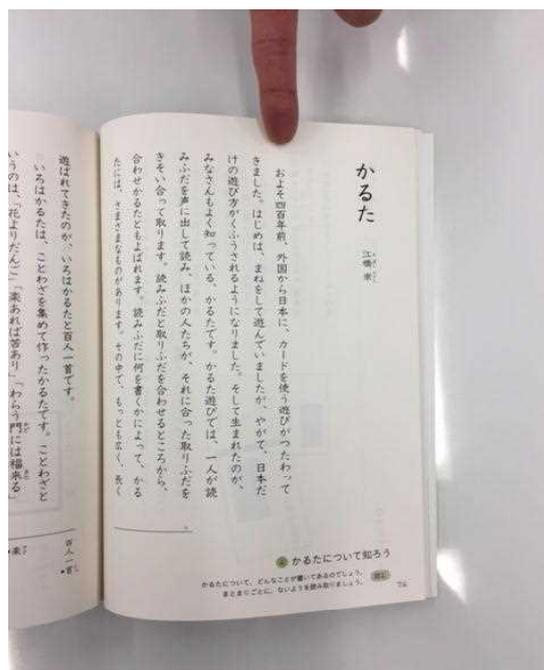
教科書の音読箇所を明示する（右写真参照）、プリント（歌詞なども）での文字提示、絵、図や写真の活用（教科書の注目箇所はそのページを開いて見せる、実物投影機で示すなど）を心掛けます。また、要点を視覚的な情報（身振りや簡単な手話など）を取り入れると分かりやすくなります。

教科書やプリントなどが見やすいように、照明の適切のも設置も必要です。

■児童の様子

視覚的な補助があることで、安心して授業に取り組めるようになりました。

また、難聴児以外の視覚優位な児童にも有効で、理解が深まる様子も見られました。



教科書の音読箇所の位置を示す例

■授業のキーワード■

口元・板書・見える位置（教員が立つ位置）・手話・身振り・プリント・実物投影機・写真

教室での聞こえにくさへの配慮



■合理的配慮の内容

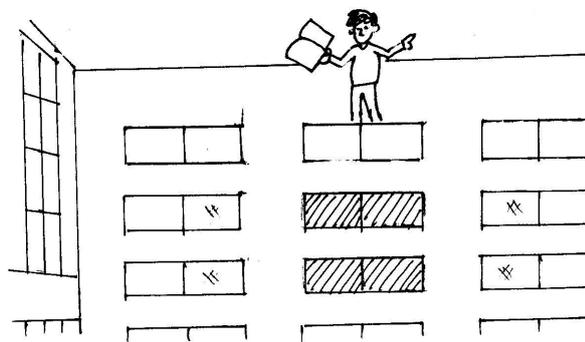
教室の座席の位置や、話し手の音量調節を行う。

■合理的配慮の詳細

聞こえにくさがある児童生徒の座席は、周りの様子も分かり、担任や友達の声が聞き取りやすい、中央の前から2～3番目にします。

また、対象児に教員や話者の口元が見えるようにして、十分な声の大きさをゆっくり分かりやすく話すなどの配慮を行います。

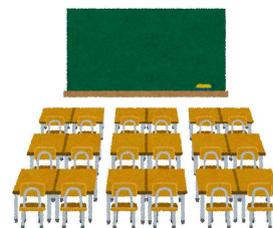
加えて、授業のポイント、友達の意見などを復唱することや、話の内容が理解できているかどうかを、担任が適宜確認することも重要です。



■児童の様子

一番前に座っている時には、頻りに後ろを向いたり、周りを見ようときよきよしたりする様子が目立ちましたが、座席を少し後ろにしてもらうことで、周りの様子を見ながら授業を受けることができました。

話し手の口元が見えるように、担任や友達が気を付けてくれたおかげで、話の内容も理解できやすくなりました。話が分からなかったときも、教員が復唱してくれるので助かったようです。



■授業のキーワード■

座席の位置、教室の中央の席、教員の立つ位置、口元が見える、復唱

机や椅子が出す大きな音を軽減する



生活全般

■合理的配慮の内容

机や椅子の脚のノイズ軽減対策（キャップの装着）を行う。

■合理的配慮の詳細

聞こえにくさがあると、多くの場合少し音が大きくなっただけで、それ以上に音が大きく聞こえてうるさく感じる傾向があります。

（リクルートメント現象、聴覚補充現象）

特に、補聴器や人工内耳等の機器を装着している場合は、ノイズも機器等で増強してしまうため、机や椅子の脚にキャップを取り付けて、ノイズを軽減する配慮が欠かせません。

テニスボールで代用する場合は、化学物質に過敏な児童生徒に配慮します。

■児童の様子

雑音が起こるたびに耳が痛くなったり、機器等の調整機能により、大きな雑音が生じた直後の音が聞き取りにくかったりしていましたが、机や椅子にキャップをしてからは、そのようなことが無くなりました。難聴児以外の児童生徒にとっても、静かな環境が得られるようになりました。



■リクルートメント現象（聴覚補充現象）とは

内耳の蝸牛内にある外有毛細胞の障害により引き起こされるラウドネス（音の大きさの感覚）異常です。リクルートメント現象のある方は、わずかな音量変化にも敏感になるため、小さな音声は聞こえにくい、大きな音声になると割れたり・響いたり、異常にうるさく感じるなどの症状があります。

■授業のキーワード■

机・椅子の脚、キャップ、雑音、大きな音

言語経験の少ないことによる配慮

■合理的配慮の内容

- ・言語経験の少ないことによる、体験と言葉の結びつきの弱さを補うための指導を行う。
- ・慣用句等、言葉の表記と意味が異なる言葉の指導を行う。



■合理的配慮の詳細

聞こえにくさのある児童生徒は、言語経験の少なさから、体験と言葉の結びつきが弱いことがあります。様々なルールや常識などの理解、それに基づいた行動が困難な場合があるので、実際の場面を想定し、行動のあり方を考えさせます。自然と耳に入ることで身につく語彙や言い回し、暗黙のルールや常識などは、情報不足で獲得しにくいので、機会を見つけて意図的に指導します。



■児童の様子

友達が分かっていそうなことも、意外と知らない場合があります。分からないことは尋ね合う学級の雰囲気の中で、その都度、説明があり、社会的なルールや知識を身に付けていくことができました。



■授業のキーワード■

言語経験、語彙、言語表現、体験と言葉の結びつき

聞こえにくさへの周囲の理解



■合理的配慮の内容

友達にも配慮が必要だということを理解してもらうための指導を行う。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童生徒は、聞こえにくさがあります。話し掛けるときには、肩を叩いて振り向いてもらうことや、本人の前に回って目線を捉えてから、話し手の表情や口元がよく見えるようにして話し掛けることが必要だということを友達にも知らせておきます。

軽度・中度の難聴児は、「聞こえるが、はっきりと聞こえない」ということを周りに正しく理解してもらい、何度も聞き返したり、声をかけられたことに気づかなかったりすることを許容できる雰囲気をつくるようにします。あわせて身振りや筆談で伝える方法を友達にも知らせておきます。

■児童の様子

補聴器や人工内耳等は、着けてもはっきり聞こえるわけではありません。初めは友達から「自分の都合の悪いときは聞こえないふりをする。」と思われてしまいました。しかし、教員が説明し友達に理解してもらうことで、事例のような配慮を友達がしてくれるようになり、友人関係がよくなりました。



■授業のキーワード■

友達、口元、目線、表情、聞き返し、気づかない、身振り、筆談

聞こえにくさによる心理面の配慮



■合理的配慮の内容

情報が入らないことによる孤立感を感じさせないような学級の雰囲気作りを図る

■合理的配慮の詳細

- ① 何回も聞き返して相手が気分を害することを心配して、分かった“ふり”をしてしまう。
- ② 「よく聞いている」のに「よく聞いていない」と思われてしまう。
- ③ 聞き落としや聞き間違いにより、コミュニケーションのすれ違いや「自分の都合の良いことしか聞こえない」などと誤解が生じてしまう。

上記のようなことで、ストレスを感じ易いことを、学級全体で理解し、心理的不安を解消できるようにします。

難聴児本人から「私の聞こえ方」「補聴器について」などのテーマで話をする機会を設け、聞こえにくい自分を開示する経験を積み重ねられるようにします。

■児童の様子

低学年のうち、一対一で話すことが多いのですが、特に高学年になると、グループでの会話が多くなり、ついていけなくなるため、対人関係でストレスを感じるが多くなりました。しかし、自分や教員が、聞こえについて説明したことで、友達からの理解が深まりました。自分から聞き返したり、友達が「〇〇〇だって」と復唱してくれたりするようになりました。



■授業のキーワード■

聞こえているふり、聞き返し、誤解、ストレス、不安

聴覚障がい者との交流の機会の情報提供



■合理的配慮の内容

聴覚に障がいのある児童生徒などが集まる交流の機会の情報提供をする。

■合理的配慮の詳細

聴覚障がい通級指導学級などを活用して、難聴児や成人した難聴者との交流の機会を情報提供します。

交流の機会は、肯定的な自己像の獲得の手助けになります。



■児童の様子

学級の中では、難聴があるのは自分だけですが、聴覚障がい通級指導学級でのグループ活動に参加することで、同じ難聴の仲間と知り合うことができました。保護者も他の児童の保護者や、通級指導学級の担任と情報のやりとりをすることができ、安心感が増しました。心配や不安が共有できることで、前向きに解決策を考えられるようになりました。



■授業のキーワード■

聴覚障がい通級指導学級、交流、情報のやりとり、仲間

聴覚障がいの専門機関の活用



■合理的配慮の内容

聴覚障がいの特別支援学校や、通級指導学級等、専門性のある機関を積極的に活用する。

■合理的配慮の詳細

聴覚障がい特別支援学校のセンター的機能及び通級指導学級等の専門性を積極的に活用し、理解の促進に努めます。

また、耳鼻科、補聴器店、難聴児親の会、聴覚障がい者協会等との連携による、理解啓発のための学習会や、児童生徒のための交流会の活用を図ります。

■児童の様子

児童生徒本人が、難聴に関する専門機関を活用して、自分の聴覚や補聴器を上手に活用する訓練や、発音訓練（語彙、文法、読み書き等）を促進する指導を受けました。聴覚活用が上手になり、発音も改善し、言語力も向上しました。

■板橋区立小学校の聴覚障がい通級指導学級

志村第三小学校 板橋区清水町83-1 FAX/電話 03-3963-0255

上板橋小学校 板橋区東山町47-3 FAX/電話 03-3972-1663

■近隣の都立特別支援学校

都立大塚ろう学校（幼・小）豊島区巣鴨4-20-8 電話 03-3918-3347

都立中央ろう学校（中・高）杉並区下高井戸2-22-10 電話 03-5301-3031

都立葛飾ろう学校（幼・小・中・高）葛飾区西亀有2-58-1 電話 03-3606-0121

■板橋区内の聴覚障がい者団体

板橋区聴覚障害者協会 板橋区氷川町46-1 高畑ビル301号 FAX/電話 03-3963-8677

■授業のキーワード■

聴覚障がい特別支援学校、通級指導学級、聴覚障がい者団体

聴覚障がいに対する周囲への理解啓発



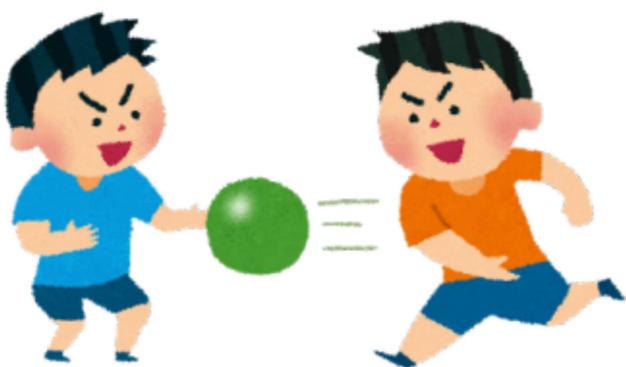
■合理的配慮の内容

使用する補聴器、人工内耳などや、多様なコミュニケーション手段について、周囲の児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

■合理的配慮の詳細

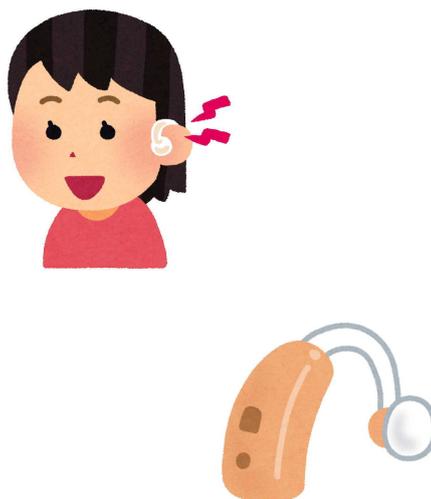
補聴器や人工内耳等の機器が難聴児にとって大切なものであることを友達にも分かりやすく伝えます。

学級内で首から上にはボールを当てない、水をかけないなどの指導を徹底します。



■児童の様子

補聴器等の機器は、難聴児にとって耳と同じであること、大変高価なものであることなどを友達が理解し、触らなくなったり、ボールなどを当てないように気を付けるようになりました。難聴児と同じように友達も補聴器等を大切にしてくれるので、安心して学級で過ごせました。



■授業のキーワード■

補聴器、級友、理解啓発

聴覚障がい児に対する災害時の支援体制



■合理的配慮の内容

災害時等の支援体制の整備や、施設・設備の整備を進める。

■合理的配慮の詳細

放送等による避難指示を聞き取ることができない児童生徒に対し、緊急時の安全確保と避難誘導等を迅速に行うための校内体制を整備します。

緊急情報を視覚的に受容することができる設備を設置します。たとえば、緊急時はトイレでランプが点灯する設備などが挙げられます。



■児童の様子

緊急事態を本人に伝える手段として、授業や休み時間の際は、担任や友達が視覚的に緊急事態を知らせることを、日頃から避難訓練等で実施しているため、スムーズに行動することができています。

トイレ等では、緊急放送を聞き取ることができないので、ランプを設置しました。「何かあった」と本人が把握できるようになりました。



トイレに設置された緊急事態を知らせるランプ

■授業のキーワード■

視覚からの情報、校内体制、避難訓練、ランプ

聴覚障がいに対する校内環境の のバリアフリー化



■合理的配慮の内容

聴覚障がいに対する校内環境のバリアフリー化を進める。

■合理的配慮の詳細

放送等の音声情報を視覚的に受容することができる校内環境の整備に努めます。

教室等のテレビなどに字幕放送受信システムを導入することで、視覚からの放送内容等を理解できるようにします。

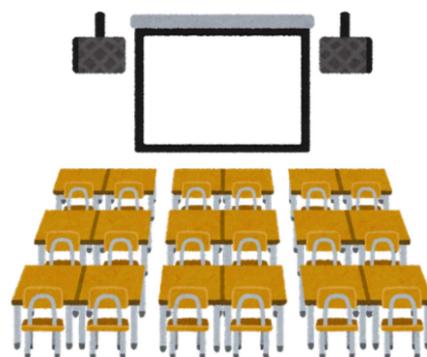


字幕放送（NHKテレビ放送より）

■児童の様子

視覚的な情報があることで、安心して授業に取り組めるようになりました。

また、難聴児以外の視覚優位な児童にも有効で、理解が深まる様子も見られました。



■授業のキーワード■

校内環境、放送、字幕、字幕放送受信システム

聞こえの環境を整備する



生活全般

■合理的配慮の内容

学芸会などの行事等で、文字を表示して視覚からの情報を取り入れることができるようにする。

■合理的配慮の詳細

行事における進行次第や挨拶文、劇の台詞などの文字を表示することで、視覚による内容を理解できるようにします。

学芸会等では、パソコン文字通訳を使用するなど考えられます。

このことを情報保障といいます。



■児童の様子

体育館で行事や朝会などがあって、事前に話す内容が決まっているときには、その原稿を舞台下手の壁に貼った白い紙に投影して見せました。台詞のセリフも、字幕のように文字提示したところ、初めて見る他学年の劇も理解することができました。

他の児童生徒にとっても、台詞が聞き取れないときには、文字をたどることができて便利だったようです。

■情報保障とは？

人間の「知る」権利を保障するものです。一般的に、聴覚障がい者に対するコミュニケーション支援を指して用いられます。パソコン文字通訳もそのひとつで、その他に授業におけるノートテイク（筆記通訳）などがあります。

パソコン文字通訳では、演者などが話している内容を、通訳者がパソコンを利用して内容を入力し、本人への情報保障を行うこともできます。文字を表示する方法は、スクリーン投影、本人の前に置いたパソコンなどへ表示する、などがあります。

■授業のキーワード■

情報保障、パソコン、スクリーン、ノートテイク